

夏季講座 ユネスコスクール研修会

8月27日「夏季講座ユネスコ研修会」が行われ、市内外から多くの先生方に参加をいただきました。

基調講演では、岩本 渉先生(千葉大学 エグゼクティブアドバイザー)より「これからのユネスコ・スクールとESD」についての話をいただきました。その中で、批判的思考(クリティカル・シンキング)が大切で、物事を多面的・客観的にみる力を子ども達につけていかなければならないことを強く感じました。

午後からは4つの分科会に別れ、それぞれに見解を深める質疑・協議が行われていました。自校の取組と比べながら聞くことで、今後の進むべき方向が明確になったのではないかと思います。

ESDの取組が充実してくる2学期、目指す子どもの姿を具体的に持ちながら取り組んでいきたいものです。

分科会の主な内容



【第1分科会 学校間交流】

学校間交流を3年間行っている玉川小と、始めて間もない岡山県の御休小の実践発表がありました。学校間交流の良さは「相手意識を持つ」こと、そして「違いからお互いの良さに気づく」ことです。両校の発表は、その参考になる内容でした。

【第2分科会 福祉・環境学習】

人とのつながりを白光中が、ふるさととのつながりを佐賀県の玄海みらい学園が実践発表されました。ESDのキーワード「つながり」を意識した取組が、しっかりと積み重ねられている2校の発表でした。

【第3分科会 世界遺産・地域学習】

世界遺産に登録された三池港が地域にあるみなと小と、日本で唯一学校に塩田を持つ愛媛県多喜浜小の実践発表でした。地域に貴重な遺産があればある程、それを守り伝承していく重みを感じます。将来を担う子ども達に、今の自分たちにできることを考え行動する学習は、とても大切だと痛感しました。

【第4分科会 ユースミーティング】

高校生・大学生・若い教員の6名で、お題に対しての自分の考えを自由に言い合う新しい形での分科会でした。「かわり」「つながり」「結びつき」をテーマに、それぞれが自分の考えをしっかりと持ち、伝え合い、協議することができました。若者の存在を頼もしく感じる事ができた分科会でした。

大牟田市立甘木中学校の実践

福祉学習を通して

甘木中1年生では、「みんなの幸せ」を考えられる人や集団になるために、車いす・高齢者疑似体験を行いました。体験を通して、車いす・高齢者の方がどんな場面で困っているかを理解したり、援助のありがたさを感じたりしていました。また、「バリアフリー、ユニバーサル・デザインの考えから学ぼう!」の活動では、大牟田市役所建築住宅課からGTの方に来ていただき、「バリア」のない生活を意識することが、自分自身の幸せにつながるということをお話いただきました。

「福祉」をテーマにして学習した今回の活動を通して、「みんなの幸せ」を考えることができる人や集団に少しでも近づくことができればと思います。



大牟田市立羽山台小学校の実践

大牟田自慢のリーフレット作成を通して

羽山台小の6年生は、世界遺産学習として古賀道雄市長による「大牟田の歴史」についての話を聞いたことで、宮原坑、三池港など「明治日本の産業革命遺産」をはじめ大牟田の自慢できるものに関心を持ちました。

そして、「世界遺産」「文化財」「祭り」など、インターネットや大牟田のパンフレット、大牟田検定ガイドブック等を用いて調べ、リーフレットにまとめました。そのリーフレットを修学旅行に行った際に、長崎市内を案内して下さった「さくガイドさん」や見学に行った施設の方に配布しました。

これらの活動を通して、子ども達は、大牟田に対する郷土愛をさらに高めていきました。また、長崎のたくさんの方々から大牟田の良さを知らせていただく良い機会にもなりました。

中でも、シーボルト記念会館では、リーフレットに感心された担当の方が、会館内に展示して下さい、来館者の方々にご覧いただくことにもなりました。

